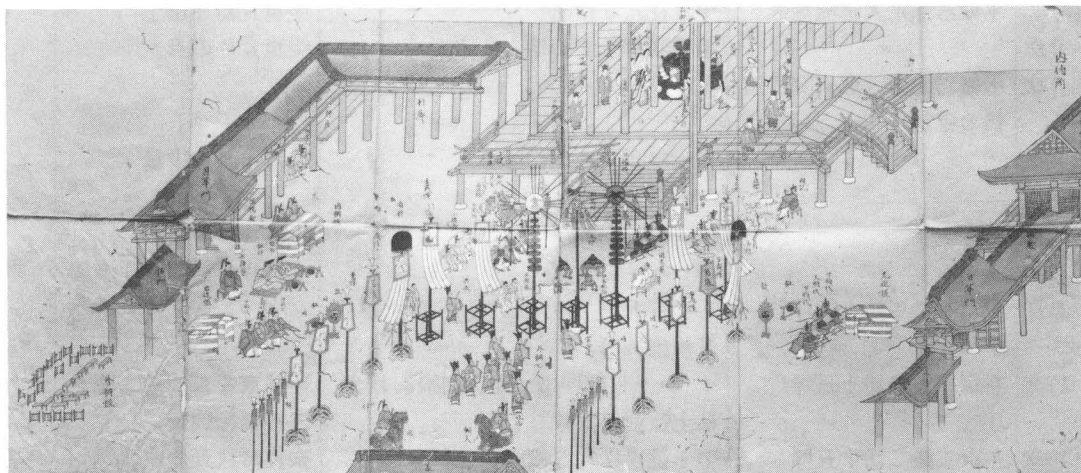


「御即位之図」(奈良国立文化財研究所蔵)



七本の宝幢 表紙カット

天皇の即位式や元日朝賀の儀式では、大極殿前庭にいくつかの旗や儀仗が立ち並ぶ。そのうち最も重要な旗が七本の宝幢である。

第152次調査で検出した七個の柱掘形がこの宝幢に対応する。表紙の図は『群書類従』所収の「文安御即位調度図」より転載した。これは室町時代の史料ではあるが、古代においてもほぼ同様の宝幢が立てられたと考えてよい。右から蒼龍旗、朱雀旗、日像幢、銅鳥幢、月像幢、白虎旗、玄武旗である。それぞれの主柱は黒漆塗りで高さ三丈あり、これを朱塗りの脇柱二本が支える。

一方、上の図は奈良国立文化財研究所蔵の「御即位之図」である。縦56.2 cm、横119.0 cm。描写年代は江戸中期と推定される。即位式の場合は中世以降になると大極殿ではなく紫宸殿にかわる。この図も紫宸殿での即位式を描いているが、前庭の様相は大極殿で行われた古代の即位式を考える上で参考となろう。図の中央部にやはり七本の宝幢が描かれている。